

協調主義は階級闘争を否認し、人格主義を基調とする社会政策的観点に立つるのであることを宣言した。

協調會宣言

協調會の主義綱領は其の設立趣意書に明であるが、世間には種々の解釋を以て之を迎ふるのであり、今に至つて尚協調の本義透徹せざるの憾みがある。

協調主義は社會に於ける各階級特に勞資兩者が、平等なる人格の基礎の上に立つて自他の正當なる權利を尊重せよと共に、社會の秩序の爲に公正合理なる自制互譲を爲し、以て相共に力を協せ産業の發展、文化の進歩、國家社會の安寧福祉を最も有効に促進すべきことを主張するのである。責任の自覺は協調の出發點

であり、正義と人道とは協調の基本を無ければならぬ。然るに今日世に謂ふ温情主義には往々にして優者か劣者を懐柔するの意が透染しておるやうに見える。斯くの如きは協調主義と遠く相距るものと言はねばならぬ。智識や境遇の差異が人格の平等を累するものに非ざることは今更言ふ迄も無いところである。何人と雖も他人を自己の手段とすることを許されぬ。人間は常に最終の目的でなければならぬ。人格の尊重、此れが協調主義の根幹である。

協調主義は社會に闘争の跡を絶たしむることを空想する止むのは無い。唯闘争に依るに非ざれば到底勞務者の地位の向上を期し得べからぬとする觀念、闘争の爲の闘争といふ主義、即ち現時の社會には協調の餘地